令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　飛幡　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2)　本校の学力調査結果の分析

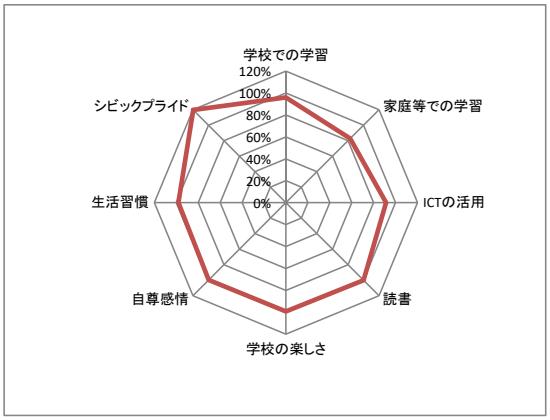
国語	全体的な傾向や特徴など	全治的には、全国平均を上回っており、特に「言葉の特徴や使い方に関すること」についての知識・技能は大きく上回っていた。ただし、 情報の扱い方に関すること」についての知識・技能のみ下回っている点が課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	事象や行為、心情を表す語句についてや文脈に即して正しい漢字を書くこと、読み手の立場に立って叙述の仕方を確かめて文章を整える、自分の考えを、根拠を明確にして文章にして書くことができるかの問題についてよくできた。	
	努力が必要な問題	意見と根拠など、また、具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題について努力が必要である。	

数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回っており、特に問題形式の「選択式」、学習指導要領の領域の「数と式」について大きく下回っており。課題である。学習指導要領の領域の「図形」に関しては、全国平均と変わらずできている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	空間における平面が同一直線上にない３点で決定されること、三角形の合同条件を用いた証明問題、二等辺三角形の証明を用いた問題についてよくできた。	
	努力が必要な問題	自然数の意味や反比例の意味の理解、事象を表した直線のグラフを事象に即して解釈する、問題場面における考察の対象を明確に捉える、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取る、事柄が成り立つ理由を説明するなどの問題について努力が必要である。	

、

英語	全体的な傾向や特徴など	全体的には、上回っている項目が多い。学習指導要領の領域の「読むこと」や「聞くこと」、問題形式の「記述式」の問題で比較的大きく上回っている。「書くこと」や短答式の問題については、県平均を上回っているものの、全国平均からは下回っている点が課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	情報を正確に聞き取ることや読み取ること、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることや短い文章の概要を捉えること、社会的な話題について短い文章の要点を捉えることができるかについてよくできた。	
	努力が必要な問題	読んだことについての考えとその理由を書くこと、未来表現（be going to）の肯定文、疑問詞を用いた一般動詞の２人称単数過去形の疑問文、相手の行動を促したり依頼する表現、事実や自分の考えなどを整理し文章をまとめて書くことについて努力が必要である。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学校に行くのは楽しいか」との問いに対して８２％の生徒が肯定的に回答している。
・学習の場面において、「主体的に考え、工夫し、取り組む」ことが弱いことが分かった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」という問いに対して肯定的な回答は９０％を超えているが、「自分には、よいところがあると思うか」という問いに対して肯定的な回答は約７５％と低い。生徒の内的な動機づけを高め、成功体験や達成感を積み重ねていく活動に取り組む。。
・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、教科の学習等でも活用できるように啓発していく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・話し合い活動を取り入れながら、考えが深まる活動や振り返りシートを活用し、自分の考えを表現する活動を行った。課題解決に向かうにあたり、「主体的に考え、工夫し、失敗をしてでも実行し、フィードバックして再考し、成功や正解を導き出す」という活動に重点をおいて行っていく。また、そのためには失敗を責めない、からかわない、その努力の過程を評価することとそういった集団の雰囲気づくりも行っていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

自分たちの住む地域での行事への参加率が高く、外国人を含めてたくさんの人に知ってもらいたいという思いや貢献したいという思いが強いので、その「郷土愛」をいかした取組を行っていく。また、「自己肯定感」や「自尊感情」を高める取組を行っていく。